

としょかんふれんず千葉市

شركة ذكاء بنج
بنساج تكتيك نروهي نذوع الواءهيو

第87号 2025. 9. 18

سميدى هلال الوصلى
٢٠٢٥ سبتمبر ١٨



医療情報の必要性と公共図書館の役割

代表 皆倉 宣之

先日北京で行われた「抗日戦争勝利80周年」式典に出席したプーチン氏と習近平氏との会話が一時話題となりました。両氏が現在の科学をもってすれば不老不死の可能性(少なくとも150歳までは生きられる)について談義したというものです。取り立てて目くらまを立てるほどの話ではありませんが、いま世界を揺るがすほどの力を持っている彼らでさえも、健康=長寿について気にしているようで、少々不思議な滑稽さを感じたことです。

健康と言えば高齢社会が進行する中で、誰もがますます不安を抱えているようです。特に認知症についてはそうです。誰も加齢に伴う肉体の衰えには逆らえませんが、できれば認知症にだけはなりたくない、予防できるものならその努力をしたいと思うことでしょう。

そのような人々の不安を払拭し、認知症への国民の理解と関心を深めることを目的として、9月は「認知症月間」とされました。わが国では「共生社会の実現を推進するための認知症基本法(2024年1月施行)」により定められたもので、9月21日が「認知症の日」となっています。それゆえ9月は各地方自治体を中心として、各地で認知症への啓発活動が行われています。

中央図書館読書まつりのお知らせ

2025年10月19日(日) 9:30~15:30

千葉市中央図書館読書まつりに「知ろう あそぼう かるた」のイベントで参加します。

様々なかるたを展示し、かるたの歴史を知り、実際にかるたで遊びます。

当日ご協力してくださる方を募集中です。

詳細は12ページをご覧ください。

もくじ

瑞穂町図書館見学記	2~3
令和7年度第1回千葉市図書館協議会を傍聴	4~5
「知ろう あそぼう かるた」	6
図書館たんけんツアーに協力者として参加して	7
トショカンシテル? 「中央図書館の児童担当になって」	9
YAコーナー 「感動する本を探して」	10
本「姉と本と私」	11

千葉市の取り組みも活発で、イベントとして「認知症を理解しよう2025秋」の開催、市役所イベントスペースや情報ステーションでのいろいろな催し、千葉ポートタワーや千葉都市モノレール「セントラルアーチ」を認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色にライトアップしての啓発活動など。そして、これはあらゆる公共図書館に共通の重要な役割(機能)と言っているかと思いますが、千葉市の図書館が全館を上げて認知症のコーナーを設置し展示ブースを設けたことです。

いまや認知症や癌などの病気を含む「医療情報」は、国民の重要かつ最大の関心事となっています。ところが「情報」を巡っては、特に SNS を通じた情報にはその信用性に疑問のあるものが多く混じっています。藁をも掴む思いで得た情報が不確かなものだったとしたら、当事者にとってはたまったものではありません。そういう意味で正確で根拠のある「医療情報」の提供は不可欠なものとなります。それに応えて公共図書館が十分に役割を果たすには、正しい情報かどうかを吟味する医療分野の選書能力と、市民は医療情報の提供を求めていると言う図書館側の自覚が求められているのではないのでしょうか。



読書会「俳句の本を読む」(第79回)

日時: 2025年10月12日(日) 14時~16時

会場: 中央図書館 グループ研修室

課題本: 『夏井いつき、俳句を旅する』

夏井 いつき(悟空出版) 2022.3出版

千葉市図書館に1冊所蔵

(前回の報告は8頁)



としょかんふれんず千葉市 図書館見学記

瑞穂町図書館見学

2025年8月27日(水)

参加者 21名

緑色にライトアップされた Mizuho town library

今回は東京都西多摩郡瑞穂町の図書館を訪れました。人口約3.2万人の町につくられた町立図書館です。

1973年に開館、その後老朽化により2020年に閉館し2022年3月にリニューアルオープンしました。

建物は延べ床面積1311.94㎡とコンパクトながら本と向き合える環境がしっかり整えられている落ち着いた図書館です。

メインコンセプトは【本や人とゆるやかにつながり、自分の居場所と感じられる図書館】

ワークショップが計画策定段階から開催され、設計・開館準備段階まで計6回延べ167人の住民が参加し多様な意見が出されました。そしてこのプロセスを通じてメインコンセプトが作られました。近隣市町村の住民も含めた世代を超えた利用者の居場所となる新しい図書館が施設計画から作り上げられていきました。

また図書館協議会でも令和元年度から令和3年度までに10回、改修に関する協議が行われたそうです。先進地視察も行われ現在も継続的に取り組む体制になっています。

○居場所としてのエリアの導入

＊会話や飲食ができる

子どものころに図書館で「うるさい」と叱られたり、赤ちゃんが泣いて困ったり、飲み物が欲しかったりといったワークショップでの声に応じて会話や飲食ができるスペースが設けられました。

会話については、1階は子どもたちが多少大きな声を出してもいいエリア。2階は声の大きさを段階的に想定したエリアになるように心がけて運営しています。

飲食については、館内のほとんどのスペースでは片手で食べられるパンやおにぎりなどの軽食が可能で（静読室は飲み物のみ）、弁当などはテラスで食べることができます。館内にはドリンクマシンが設置されていました。



ガラス張りのセミナー室
普段は静読室。有料で利用可。

＊禁止事項のない図書館

禁止事項の張り紙はなく、公共の場をみんなが楽しく過ごすため利用者も考えるよう職員が声掛けなどしながら子どもたちと会話して共に成長しているとのことでした。

＊多様なスペース

自然を楽しむ読書テラスは屋外で読書や飲食ができるスペースです。

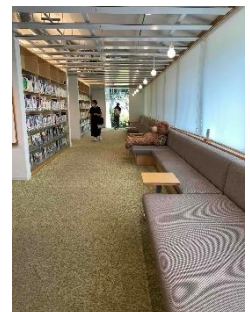
外の緑が見える窓際にはカウンター席がありました。また、セミナールームは普段は無料の静読室ですが、イベントなどには有料で利用できます。

長さ18メートルあるロングソファーにはとても大きなクマのぬいぐるみがおいてあります。手足を動かして遊んだりもたれかかったりと楽しめます。

静かに本を読む席、グループなどで利用する席、くつろげる席など用途ごとに利用できる空間を導入していることはワークショップで出された意見が反映されて、うらやましい限りでした。



読書テラスからは中学校のグラウンドの緑と青い空が♪



館内には座って読書できる席が沢山！

○テーマ配架の導入

日々の暮らしに近いテーマや地域に根差したテーマなど瑞穂町独自のテーマ6つをもとに本棚が設置されています。目的に応じてわかりやすく、十進分類にとられない見つけやすい配置になっています。

〔みずほ楽〕 文化を学び楽しむ本棚

〔みずほ育〕 こどもの学びや、子育てを支える本棚

〔ベーシック〕 文学作品を中心とした本棚

〔ティーンズ〕 10代の若者の生活や気持ちに沿った本棚と自習スペース

〔QOL (Quality of Life)〕 健康や仕事の本など生活を豊かにする本棚

〔みずほ学〕 地域について学び、活動するための本棚

[ティーンズ]のテーマには「C 学校で学べないこと」「E 社会とつながる」「F 大人になるまで」などの表示。[みずほ学]には「F 日米関係を学ぶ」「横田基地友好BOOKS」など、この棚はこんな内容だとわかり、子どもでも見つけやすいです。関連した本もみられることやおもしろそうな本とも出合える、そんな親しみやすい工夫がされていて思わず本を手にしたくなりました。

本をどこに配架するのか、どのように決めるのかとお聞きしたところ、常に職員が意見交換をしながら配置を考えているとのことでした。

○図書館ファンクラブ「MIDORI」

ワークショップから生まれたファンクラブです。本や図書館や町に関するイベント等の企画や運営に関わり、町のボランティアに登録されているそうです。

○参加者からの質問

見学の前に図書館員から説明を受けた際の質問です。

Q:ワークショップの対象者は

A:瑞穂町住民、近隣8市町村の図書館を利用できる人。ワークショップを知らない大学生や大滝ファンの人などの参加もあった。人数制限はしなかった。

Q:電子書籍については?

A:取り入れていないのが現状。利用者からは今の要望はない。

Q:ワークショップは幅広い年代が参加しているが、中高生にはどのように声掛けしたのか?

A:中学校には学校図書館司書に協力してもらい、図書館によく来る生徒に声掛けを。高校には直接職員がお願いした。

Q:飲み物や食事の時間制限などは?

A:時間制限は設けていない。1日中OK。使用した場所を綺麗な状態でいかに保てるか、本と同じで利用者も心がけていると思う。

瑞穂町図書館のリニューアルでは、ワークショップを重ねて自分の居場所と感じられる公共図書館に生まれ変わりました。

ワークショップで様々な世代の人が意見を出し、それが現在の運営にもきちんと反映されていく。

あらためて職員の熱意を感じました。

また常に住民との会話を重視し、顔が見える関係でいることの大切さ、利用者に寄り添う姿勢がうかがえました。

(運営委員)



瑞穂町郷土資料館「けやき館」

入館すると高度約1700メートルから撮影した瑞穂町周辺の航空写真が足元に広がっていました。横田基地や狭山丘陵などをバースアイで見る事ができました。

狭山丘陵の雑木林の一日を光と音であらわすジオラマや、地形シアターではプロジェクションマッピングで瑞穂の現代に至るまでの生い立ちが映像化されていました。自然や文化や歴史を楽しく体感しながら学べる資料館です。短い時間でしたが、東京狭山茶や村山大島紬、多摩だるまと言った産業の説明も職員から説明していただきました。ありがとうございました。

推定300年とされるけやきの大木とニホンオオカミ像がけやき館のシンボルです。



図書館はどこでしょう?



多摩だるま

社会教育施設「耕心館」

屋敷森に囲まれた江戸末期の豪農の母屋です。旧細渕家は明治、大正、昭和に至るまで醤油醸造、養蚕、お茶、煉瓦製造など街道の人を相手に商売をしていたそうです。平成にはフランス料理店になります。

平成13年に瑞穂町が買い取り現在は演奏会や展覧会のため、梁を高くし屋根を持ち上げるなどの整備がなされています。養蚕のための家屋構造や大正時代に増築された和室の書院障子の木組みなど見ることが出来ました。外には二棟の土蔵、山野草の数々。少し離れた所に高さ約18mの煉瓦製造の時の煙突が残されています。時代の流れと人々の変化していく過程を表現している耕心館。

職員の解説をお聞きし、歴史ある和洋折衷洋式の独特な雰囲気の中で、庭園を見ながらお食事をいただきました。



梁を持ち上げたことが分かります。

令和7年度第1回千葉市図書館協議会

2025年8月8日(金) 14:00~15:40

千葉市消費生活センター3F 研修講義室

協議会委員9名(欠席1名) 図書館職員12名(欠席1名) 傍聴7名

中央図書館長の佐久間氏は、猛暑の影響か、来館者数が6月は減少したが、夏休みの子どものイベントもあり7月は増加した。また8月1日から千葉そごう三省堂とコラボしたスタンプラリーが始まり、来館者が増えることを期待するとあいさつした。2名の協議会委員が新たに着任した。

…議事…

(1) 令和6年度千葉市図書館の評価(案)について

図書館の内部評価が行われ、7月15日外部評価部会にて外部評価(案)が検討された。評価部会に出席した委員は吉岡部会長と磯野委員。

内部・外部評価ともに「図書館サービスの基本的な取組事項」はB評価、「令和6年度主要事業」はA評価が5項目、B評価が2項目、C評価が1項目としたと説明があった。

〈外部評価(案)についてのコメント〉(吉岡部会長)

・「図書館サービスの基本的な取組事項」

来館者数や電子書籍が前年比増で評価できるが、図書資料の貸出冊数や市民一人当たりの貸出冊数の増加に努めてもらいたい。(B評価)

・「令和6年度主要事業」

① 市民インタビューによる記憶の保存 (B評価)

千葉市オーラルヒストリーは今年度から一部映像もありより親しみやすくなった。市民協働体制作りを推進していただきたい。

② 地域情報のデジタル化 (A評価)

オープンアクセス可能な史料が増加することは歴史研究や生涯学習にとって望ましい。

③ レファレンス機能の充実 (A評価)

オンラインデータベースの利用により的確なレファレンスサービスが可能となった。担当職員には一層の習熟を希望したい。

④ 電子書籍サービスの提供(学校向けコンテンツの充実) (A評価)

特に小中学校には意義深く、さらなる周知を図り、コンテンツの充実をお願いしたい。

⑤ 社会教育施設保全計画の策定(公民館・図書館) (B評価)

⑥ 千城台公民館・若葉図書館再整備 (A評価)

⑦ 花見川図書館花見川団地分館の空調設備改修

工事 (A評価)

⑧ 稲毛図書館昇降機改修実地計画業務委託 (C評価) 工事費高騰により入札不調

〈意見・質問〉 委…協議会委員 図…図書館

委:学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム「すぐー」で電子書籍サービスについての連絡が秋休みになったのはなぜか。

図:事務処理が遅れたため。今後はできるだけ夏休みに配信したい。

委:予算額と決算額の差が約1500万円あるのはなぜか。

図:図書館だけでなく全庁的に予算額から留保している。予算について予定通りに入っていないものもあるため、一定額を留保しておく。緊急時や必須の経費以外は年度末に留保解除できないものもあるため、決算額が少なくなることがある。

委:社会教育施設保全計画のパブリックコメントの回答はいつ出されるのか。

図:教育委員会会議に諮り、議決後に計画策定となり、回答を添えて公表される。次回協議会前には公表見込み。

委:寄贈本の内訳が知りたい。

図:次回までに、児童書と一般書の数が出せるか調べてみたい。

委:司書資格を持つ職員の養成計画はあるのか。

図:一般事務職で採用した職員の中から司書資格保有者を図書館に配置している。千葉市としては専門職の採用は行っていない。

委:ホームページアクセス数の急増はサイバー攻撃を受けたのか。電子書籍の閲覧数も増加しているが。

図:特定のIPアドレスからだか、攻撃ではない。生成AIによるWeb検索の影響でアクセス数が増加することもある。閲覧数の増加は、学校用IDを市内小学校に提供したため閲覧増加したと考える。

令和6年度千葉市図書館の評価(案)については承認された。

(2) 令和7年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

令和6年度評価のための取組項目と評価指標の審議にあたり、まずは図書館から主要事業7項目などについて説明があった。

〈意見・質問〉

委:図書館ホームページのアクセス数に関して、令和7年度「対前年比増」の達成目標は、令和7年度に急増した特定のIPアドレスからのアクセスが無くなると数値が減少し目標未達成となるのではないか。

委:アクセス数ではなく、蔵書検索数など別の指標にしてはどうか。

図:特定のIPアドレスについては調査中である。検索画面のアクセス数が集計できるか確認したい。この件は条件付きという形で、現行の方針のまま進めてさせてもらいたい。

委:数値目標は維持するだけでも大変な中で「対前年比増」の目標にも強弱あると思うが、何を重視するのか。

図:コロナ禍による一斉休館から、来館できる状況になった。第一は図書館に足を運んでもらうことなので、来館者数を目標にしたい。

令和7年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)は条件付き事項を含めて承認された。

(3) 千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)これまでの取組み及び第5次計画の策定について

事務局より第4次計画の計画推進の取組と状況について説明があった。

計画推進のための取組

<達成した所管課が90%以上の事業>

○図書館利用登録の促進

○読書手帳の配布

○ファミリーブックタイム運動の推進

<達成した所管課が50%未満の事業>

×点字資料(絵本等)や大活字本の収集・作成や手話筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施

×学校図書館運営委員会と図書館等との連携

×日本語を母語としない子どもに向けた資料情報の提供

第5次計画の策定に向けて

第5次計画数値目標(案)⇒第4次での結果

●1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合(を減らす)
⇒小学生【達成】 中学生【未達成】

●1週間に1時間以上読書をした児童生徒の割合(を増やす) ⇒小学5年生【未達成】、中学2年生【未達成】

●児童生徒一人当たりの児童用図書の出借冊数(を増やす) ⇒【未達成】

●団体貸出の利用団体数(を増やす) ⇒【未達成】

計画期間/令和8年度～12年度(5年間)

想定スケジュール/令和7年8月～

図書館にて計画素案を作成

令和7年11月～図書館協議会付議(素案)

令和8年2月 パブリックコメント

令和8年3月 教育委員会会議付議

<意見・質問>

委:不読率などは調査方法によって冊数の数値が違ってくるのではないか。

図:読書量調査については、実施する学校が毎年異なるため、学校によって差が生じる可能性がある。「1週間に1冊以上読書をした児童生徒の割合」の指標については「平均読書冊数」という指標にすることも参考にしていきたい。

年齢が上がるにつれ不読率が上がる傾向は変わらない。小学校高学年までの読書習慣をつけることが大事。電子書籍については、小学生が9割、中学生は2割がGIGAタブを通じて活用している。中学生向けの書籍の充実と周知をしていきたい。

委:子どもの読書について具体的な取組は?

図:4か月健診でのブックスタートや小学校入学時に図書利用者登録の促進、また、年齢別おすすめリストを紙とホームページで紹介している。

委:「すくーる」は親向けの情報なので、子ども自身に年齢に応じた読書への関心を高める情報発信や紙での配布ができないか。

図: SNSで発信している。GIGAタブで図書館の情報を伝えるのは難しく、紙は学校の事務負担になり難しい。

委:夏休み前は、紙での配布物が多い。「すくーる」の情報を親子で共有して、図書館に行くきっかけにしたい。

(4) その他

【土気市民センター・土気公民館の建替について】

土気市民センターは、昭和44年建築され、土気市民センター、土気いきいきセンター、地域活動支援センター、緑図書館土気図書室の各施設が入っている。同じ敷地内の土気公民館は、昭和57年建築され、どちらも建物の劣化が進んでいることから、新たな複合施設の建設を予定。

緑図書館土気図書室は、令和9年度～11年度は休止。令和12年度から新複合施設内で土気公民館図書室として運営する方向で検討している。

8月19日 18時より住民説明会が開催される予定。(12ページに報告)

【千城台公民館・若葉図書館の再整備について】

基本計画に基づいてすすめられ、利用者が借りられる図書館専用の部屋は設けない。

また、資材高騰のため、20億円の総工費で納めるには、部材など内容の変更などがあると思われる。(運営委員)



知ろう

あそぼう

かるた

正月の子どもの遊びと言えば、凧揚げ、羽根つき、すごろく、かるた。中でも「かるた」は身近で子どもたちに馴染みがあり、人気がある遊びだ。

この「かるた」の歴史は古くはなく、1543年鉄砲伝来、1549年キリスト教伝来の頃、種子島に漂着したポルトガル人が航海中に遊んでいた紙札、ポルトガル語の「carta」（英語の card）の外来語であるとのこと。

室町時代の終わりの頃、1573年から1592年までの天正年間以降に国産化した「かるた」は「天正かるた」「うんすんかるた」などにアレンジされ、トランプの一種で賭博の用具でもあった。これらのカード48枚に描かれた絵は木版画であったり手描きであったり大変美しいものに仕上げられていた。

「歌かるた」の一種「小倉百人一首」は江戸時代に入って徐々に盛んになってきた。これは平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて活躍した公家・藤原定家が選んだ和歌を「貝合わせ」という王朝時代の優雅な遊びと結びつけ、貝ではなく、

長方形の紙型に
和歌の上の句と下の句を
分けて書き、それらを早く
正しく合わせて
取る遊びにした「かるた」



かるたには「歌かるた」「いろはかるた」トランプと言われる「西洋かるた」、また「花札」などがあり、歌の上句、下句を合わせるだけでなく、「貝合わせ」や「貝覆い」の遊びに倣ってつくられた「絵合わせかるた」もつくられた。

この「絵合わせかるた」から「花合わせ」や「四季の草合わせ」などが考案され、松・梅・桜・藤など四季風物のデザインは秀抜な「花札カルタ」を生んだ。かるたの研究者・山口格太郎も「花札」のデザインの素晴らしさに触れ「文化文政のころ花札」を産むに至る。このかるたこそ日本らしい季節感に溢れた世界に誇る傑作」と記している。



かるたはトランプのように、言葉を発することなく一対を合わせる遊びであったが「和歌の読み札、取り札」に発展すると、争いのなくなった平和な徳川・江戸時代には武士階級だけでなく庶民にも普及、様々なかるたが作られるようになった。

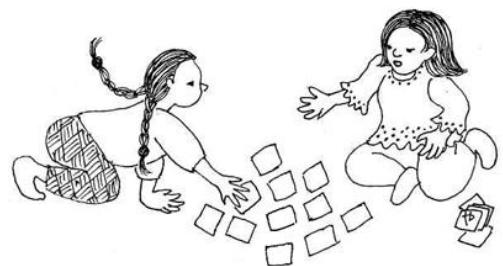
中でも「いろはかるた」はことわざであったり、たとえことばであったり、また地方によってその内容が様々な郷土の文化であったりと現在に至っている。



瀬田貞二著『落穂ひろい』には「カルタが子どもたちに及ぼした教育的効果には深いものがあったと思われます。耳になじむリズムミカルなイディオムをおぼえ、絵柄によっていろは文字をおぼえ、さらに諺の持つ要約的な理念を寸鉄の武器として使うことをおぼえて、積極的な自得によって共通の教養と化した」と記されている。

10月19日（日）千葉市中央図書館における「千葉市読書まつり」では「知ろうあそぼう かるた」をテーマに、美術誌や関連本の展示の他、「小倉百人一首」をはじめ、「犬棒かるた」「江戸かるた」

「郷土かるた」「絵本かるた」「紙芝居かるた」などを用意して、グループ研修室で「かるた取り」をします。大人も子どももどなたでも、ぜひ参加してください。



参考図書

『落穂ひろい』 瀬田貞二・著 福音館書店

『カラー図説 日本大歳時記』〈新年〉

講談社 1982年12月発行

中央図書館親子図書館たんけんツアーに

協力者として参加して

日時： 2025 年7月29 日（金） 第1回 10:00～12:00 第2回 14:00～16:00
会場： 千葉市中央図書館 参加者： 各回合計親子約 20 組 協力者4名

「としょかんふれんず千葉市」に中央図書館から親子図書館たんけんツアーに協力依頼があり、協力者の一人として参加しました。このツアーは図書館内を2時間で移動しながら、図書館サービスや職員の仕事などを知ることができる楽しい企画です。ゲームの感覚で資料を探す、普段は入れないバックヤードも見られ、毎夏休み大変人気のツアーになっています。

ツアーが始まってすぐに気付いたことが、児童書の書架の低い位置に大きな字のひらがなで、何の書架かが書かれた案内板が置いてあったことです。子どもの目につきやすく、何の本がある棚かが一目で分かってとても良かったです。職場体験や図書館見学のために作ったものとききましたが、図書館で資料を探す時に何がどこにあるのか一目でわかることで、大人でも探しやすい、常にツアーのために工夫を重ねていることも感じました。

毎年、応募が多く抽選となっているとのこと、今年は約3倍の競争率だったそうです。参加者の中には3年目にしようやく抽選に当たったと喜んでいる子もいれば、昨年に続き2回目という子もいました。興味を持ってもらえた親子にはできるだけ参加してもらえよう、開催日や開催回数を増やすなど、是非希望に応じてほしいと思います。また、丁寧な説明に参加者は身を乗り出して聞いていたのですが、小学生は高学年と低学

年の理解度がだいぶ違うので、年齢別に行うと、より分かりやすいものになるのではないのでしょうか。

今回は、自分の生まれた日の新聞を見てもらう場所が、掲載されている縮刷版が置いてある2階の新聞コーナーではなく、1階のおはなしの部屋の前に移動していました。一般の利用者からうさいと苦情があり変更したとうかがいました。新聞縮刷版が置いてある臨場感こそが子どもには必要なので、一般の利用者には、短時間であること、子どもが貴重な体験をする時間であること、これからの図書館利用者を育てていく企画であることを繰り返し説明する図書館の姿勢が大事だと考えます。それが、一般の利用者の理解につながっていくと思います。

また、ツアーの中に障がい者サービスの説明と体験がありますが、熱心に聞いていた参加者の一人が点字の本にとっても興味を持ったようで、一般の利用者でも点字の本を借りられるのかと聞かれました。私は利用したことがなく、知識もなかったのですが、直ぐに引き返し、障がい者サービスの担当者に尋ねると、「だれでも借りられます」と答えてくれました。それを伝えると喜んで、今度来て借りてみますと言われました。このように私自身も貴重な体験ができる催しに協力し、学びがありました。次年度もより進化した楽しい親子図書館探検ツアーを期待しています。（運営委員）

「千葉市中央図書館読書まつり」のバッジを作りました

2025年9月1日(月) 10:00～14:00

中央図書館 2 階会議室 参加者8名

今年も中央図書館読書まつりのチラシやポスターには、「本^{ほん}多くん」と相棒のネコ「ライブラリ」のかわいいキャラクターが登場しています。

「本^{ほん}多くん」は千葉市中央図書館に住む妖精です。（本人は妖精だと思っていますが、本当は「本の虫」なのではないかという噂も。）

材料や印刷は中央図書館に準備していただき、私たちは作業を担当。バッジづくりは、おしゃべりしながらも手をせっせと動かす楽しい時間になりました。

丸い形をきれいに切り取るにはどうしよう、リボンをホチキスで止める位置はどこにしようと、あれこれ試行錯誤しながら、合計249個作りました。

読書まつりでは、職員とボランティアがつけていますのでどうぞごらんください。



誉田公民館は大網街道沿いにあり、近くには誉田小・中学校がある。2024 年度後半は公民館空調改修工事のため半年間閉鎖になった。図書室も公民館玄関ロビーでのリクエスト貸出と返却のみの利用になった。ストーブ一つで頑張り続けた職員さんには感謝の気持ちでいっぱい、労い話す人の声に心和んだ。

図書室が再開したある日、常連らしい男性が、図書室カウンターにいる職員さんと楽しそうに二言三言、言葉を交わしていた。些細な会話だが図書室の空気が緩んでほっと一息つけた。それからは私も自然と「こんにちは」と声に出して挨拶をするようになった。

「居場所としての○○館」の視点から公共施設の在り方を考える動きがある。老いも若きも居場所を切実に求めているのだ。夏に涼を求めて人々が集まる「クールシェア」のように 本を借りるだけでなく気軽に過ごせる居場所としての図書室を謳ってはどうか。散歩途中に休憩したり、誰かと挨拶を交わしたり、ふらりと寄り道できたり。公民館図書室での本がつなぐふれあいが「居場所」探しを後押しすると思う。

読書会報告「俳句の本を読む」第 78 回

課題本：『夏井いつき、俳句を旅する』

夏井 いつき(悟空出版) 2022.3 出版

日時：2025 年 8 月 10 日（日）14 時～16 時

会場：千葉市中央図書館 グループ研修室 参加者 7 名

今回からテキストが変わり、新しい参加者 2 名を迎え、楽しい読書会になった。

最初にテキストの「はじめに」を読む。「俳句には、二つの楽しみ方があります。一つは、作る楽しみ。もう一つは読み解く楽しみです。…本書は、江戸期の俳人から現代を生きる市井の俳人まで、私の心の赴くままに様々な作品を取り上げています。…」を読み合い、第 2 章「夏」38 頁から始めた。

〈牡丹散ってうちかさなりぬ二三片 与謝蕪村〉(1716～1783)

牡丹は平安時代に遣唐使が中国から持ち帰った花とも言われている。美意識豊かな日本人に愛でられ、植栽されてきたとのこと。色鮮やかな牡丹の花々。でも著者の夏井氏はこの句では白牡丹を詠んでいる、「初夏の光だ」と記す。

〈罌粟ひらく髪^けの先まで寂しきとき 橋本多佳子〉(1899～1963)

罌粟と芥子の違い。罌粟は 2 年草植物でアヘンやモルヒネがつくられることから現代は栽培禁止となっている品種もある。芥子からはし菜、種子は香辛料になる。多佳子が見たのは罌粟の花。この句は作者 48 歳から 52 歳までの第 3 句集「紅絲」に収められている。自分に置き換えると「寂しきとき」は 10 代のころ。
“巷に雨の降る如くわが心にも涙降る…”(詩 ヴェルレーヌ)

〈決心^{けしん}を束ねて薫る百合である 夏井いつき〉(1957～)

この「決心」は十年に一度ほどの、これぞという決心とのこと。

〈墓^{ひきかえる}ひたすら月にせまりけり 宮沢賢治〉(1896～1933)

私たちの読書会で「宮沢賢治」の句は初めて接する。賢治の句はそれほど多くはないとあった。べたりべたりと月に向かうヒキガエルを賢治は優しく見守っているのか？

〈あぢさゐの花より懈^{たゆ}みごもりぬ 篠原鳳作〉(1906～1936)

鹿児島県出身。無季俳句で有名とある。読書会参加者の調べに、沖縄で教鞭をとっていた時、沖縄は常夏の国で季節感がなく俳句を作るのに苦労すると相談したところ、吉岡禅寺洞より「俳句は季が無くても作れる」との返事を受け作句に励んだ。とのこと。

次回 10 月 12 日(日)14 時～ 68 頁 秋の季語から 中央図書館グループ研修室 (運営委員)

ぶつく・ぶく

ねえ！知ってた？

9 月 21 日は「認知症の日」
なんだって。

2024 年施行されたとか。
ロシアのウクライナ軍事進攻
未だ終わらず。
アメリカでは再びトランプ大統領。
やりたい放題。

日本では参政党議員が増えた。
支持者の多くは 10 代とか。
戦後 80 年、戦争のない時代を
過ごしてきたオバサンは
認知症の心配をよそに

夜も眠れず、昼間寝て！

しったかぶり子





中央図書館の児童担当になって

図書館情報資料課 児童青少年班 炭田 里奈

私は、今年の4月に新規採用職員として千葉市に入庁しました。中央図書館の児童青少年班に配属され、毎日たくさん子ども達とかかわる仕事です。普段から読み聞かせや選書、レファレンス対応で、子ども達に本の楽しさを知ってもらえるよう、取り組んでいます。子どもに手渡す本は、年齢で判断するのではなく、その子が読みたい本を渡してあげることが大事だと考えるようになりました。

読み聞かせのときは、ゆっくり丁寧に読むことを意識しています。子ども達に絵をしっかりと見てもらいたいので、展開を意識しながら絵本のページをめくっています。また、会話の部分は誰がどのセリフに当たるのかを意識しながら気持ちを込めて読んでいます。

6月、千葉県立図書館が主催している児童サービス基礎研修に参加しました。そこで、絵本の読み方や選書の仕方などを基礎から研修しました。研修で紹介された「読み聞かせにおすすめの本」や「読み継がれている本」から読み聞かせを行うようにしています。

研修では他市で勤務している図書館職員と、それぞれの館の課題について話し合いを行いました。おはなし会の集客に困っている館が多く、日程・時間帯の見直しや広報の規模を拡大するなどの意見が出されました。また、レファレンス対応の演習では、同じテーマでも様々な種類の本があることに苦戦しました。聞かれていることに対して一番近い回答ができるような本を探すように日々努力しています。特に苦戦したのは同じ出版社の本でも出版年が古いと今の小学生の教科書に合っていないという点です。今の小学生が学習している内容を把握しておくのも児童サービスを担当する職員として大切だということを学びました。

また、図書館業務として、学校連携や様々な主催事業も行っています。

5月には小学生の図書館見学を担当しました。国語科や社会科の学習の一環として来ているので、ただ説明をするだけではなく、学習内容に沿うような説明をしなければなりません。

また1年生と6年生では、読める文字や理解度も違ってきますので、学年に合わせた説明をするように意識して対応しました。クラスの中には、本が好きな子もいれば苦手な子もいます。本に苦手意識を持っている子には、昆虫や動物の図鑑など、気軽に手に取りやすい本を薦めました。子どもと本を結びつけるよい機会になったと思います。

私が初めて担当した主催事業に「親子図書館たんけんツアー」というものがあります。毎年、としょかんふれんず千葉市の皆様のご協力を得て、開催できている事業です。

普段、小学校の図書館見学でしか入れない場所に親子で入ることができるツアーで、午前・午後各1回ずつ、小学校1年生から6年生までの約20人が集まって実施しました。そのため、言葉遣いや話すスピードに気をつけ、なるべく多くの子どもに伝わるように意識しました。

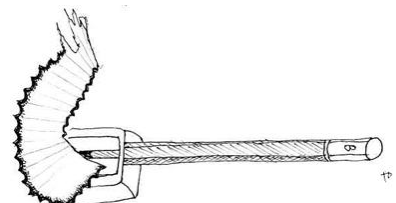
他にも、「この本を探せ!」という指定された分類の本を探す体験型のコーナーや、自分が生まれた日の新聞を読むコーナーを設けました。子ども達だけでなく、保護者の方達も我が子が生まれた日について興味を持っていたので調べる時間を設けてよかったと思っています。

課題として応募倍率が高いため、次年度は回数を増やすなどの対策を検討していきたいです。ツアーの内容については小学校低学年と高学年に分けること、地図やイラストを用いてどの学年にもわかりやすい資料を作ることなど検討していきたいと思っています。

これからも子ども達が楽しく読書に親しみ、本を通して豊かな経験ができるように努めてまいります。また、主催事業を通じて様々な体験ができるよう、図書館職員としてサポートしていきたいと思っています。

今後ともよろしく

お願いいたします。





YA コーナー



「感動する本を探して」

中央区 ○○ ○○(中学1年)

今まで沢山の本を読んできたが、自分の生き方を変えてしまうほどの深い感動を与えてくれる本にはまだ出会っていない。

だが、私は、自分が読書を好きではないのでは、と疑ったことはない。それは、このような言葉を聞いたことがあったからだ。

インスピレーション

「**感 激**をもって書かれ、読むものを感激させる書物というものは、いつの時代にもあったし、(中略)一生のあいだに、五本の指で数えるくらい出会った人は、幸運な人というべきだ。」「わが読書」新潮社『ヘンリー・ミラー全集Ⅱ』より

これは、アメリカの小説家であるヘンリー・ミラーが述べた言葉である。

私に感動を与えてくれた本はいくつかあった。しかし、本を読んでいる間だけ感動する本がほとんどで、読み終わってから思い出す本もめったにない。ましてや、毎日のようにその本のことを思い、その本の考えを自分のそばにおいていたいと思えるような本に出会えるなんてすごいことなのだと思う。

そのような本に出会うきっかけは、身近にあると思う。図書館が身近にあるのだから。でも、読み手側の深く感じたいという気持ちも大事だと思う。その本をただただ読み進めていくだけでは、もし読んでいた本が自分の生き方に影響を与えるような本だったとしても、それを取り逃してしまうことになる。だから、私は、本を読むときの気持ちを変えるだけでも、その本が与えてくれる感動の大きさはかなり変わるのだと思っている。

また、読み手側の心境も関係があると思う。もし何かに悩んでいたときに、その悩みを解決してくれるような本に出会えたり、その心を支えてくれるような本に出会えたりすれば、その本は自分の生き方に影響を与えてくれることになるだろう。

私の気持ちや心境に本が重なることで、自分にとって大切な一冊と出会えるのではないかと期待している。偶然が重なり合って奇跡が起こるのだ。奇跡は待っていても起こらない。だから私はこれからも図書館で本を探し続けようと思う。

最後に、小さい頃から毎週土曜の夕方に図書館へ連れて行ってくれた父に感謝を述べたい。

おかげで、名作と呼ばれるものもそうでないものも読むことができたし、小学校高学年になってからは小学生新聞を一週間分読むのが習慣になっていた。もしそれらがなかったら、今の私は創られていない。私とは何か？自分では思いやりがあって面白い人間だと思っているが、人からは、私と言えば「自由研究」と言われている。小学校一年生の時から自由研究の科学論文は毎年学校代表で、県でも全国でも入賞してきたが、去年の夏休みは読書感想文も学校代表に選ばれた。読書感想文を書いたのは初めてだったので、驚いた。驚いたが、それまで沢山の本を読んできたから、科学論文でも読書感想文でも書けたのかもしれない。

お父さん、今まで図書館に連れて行ってくれて、沢山の本を借りてくれて、ありがとう。中学生になってから、なかなか図書館へ行く時間がなくなっただけ、お父さんが本を選んでくれるからとても助かる。

これからもよろしく。



☆ YA世代の参加を願い、このコーナーを設けています。

姉と本と私

花見川区 ○○ ○○

今回寄稿のお話を頂いた時、皆さんのような本にまつわる話などない私は改めて本との関わりを考えてみた。

私には4歳年上の姉がいる。今では名前では呼び合い友達のように接しているが、子どもの頃の4歳差というのは当たり前だがかなり大きく、何をしても敵わない私は母や姉に言われるがままの薄ぼんやりとした子どもだった。そんな私の幼い頃の本に関する一番の記憶というのが、図書館の人が本を届けに来てくれていたことだ。

私が生まれ育ったのは、福岡県の北東部に位置する筑豊地域、炭坑節発祥の地といわれる田川市で、三方を山に囲まれた盆地の人口5万人弱の小さな町だ。市の図書館は家から気軽に行けるほど近くにはなく、当時、図書館の職員と思われるオジサン2人が白いバンに本を積んで家に入る私道まで来てくれていた。姉はそれがとても楽しみだったらしく、「こんな本が読みたい」とお願いすると次来る時に持ってきてくれて、オジサンのお薦めの本を借りていたようだ。私はというと、自分がどんな本を読みたいかもわからずモジモジしていたことを覚えている。

こんな風に姉はとても本が好きだったので、家には本がたくさんあった。少年少女世界の文学(小学館)、ジュニア文学名作選(ポプラ社)、こどもカラー図鑑(講談社)や他にも赤毛のアンシリーズなど。

私はあまり本が好きではなく、母はいずれ私も読むだろうと思って買い揃えたのだろうが、私自身はこの本は姉の物、という思いもあったのか、ほとんど手にする事なく背表紙だけ見て育った。(結局のところ、本を読むことに楽しさを見いだせなかったただけだが…)

小学校に入ってもそれは変わらず、図書室で何を借りてよいかわからない私は、姉から「図書室のどこそこにある○○を借りておいで」と教えてもらっていた。覚えているのは、コロボックルシリーズ(佐藤さとる)、大草原の小さな家(ロ

ーラ・インガルス・ワイルダー)などだ。

では私はいつから読書に楽しみを見出したのか? それは大人になってから。就職して福岡市内で1人暮らしを始めてからだ。携帯電話のない時代、通勤電車の10分が手持ち無沙汰なと家で1人でする事がなかったからだ。とりあえず話題の本を手に取り、そのうち好きな作家を見つけて読み、友達のお薦めの本を読んだ。姉は年に数十冊の本を買っていて、帰省のたびにそれを読むのが楽しみのひとつになった。姉と、読んだ本の感想を話したり相手がまだ読んでいない本をお薦めしたり。なかでも、この本が映像化したら配役は誰が良いかという話をするのが楽しかった。

思い返すと、私と本との関わりは姉と深く結びついている。そういえば小さい頃、姉が創作した挿し絵つきで書かれているおはなしブックなるものも聞かされていたなあ。

そんな私は今さくら文庫のスタッフとして参加している。選書の会等で本の話をする時、自分が本をあまり知らないこと、大人になって読んでも子ども時代に読んで感じる思いとは違うこと、そしてその子どもの頃に感じた思いはもう決して手にすることはできないことを

残念に思っている。だから、孫にはたくさん絵本を読んであげたい、というのが私のささやかな願いだ(ちなみに孫はまだいません)。



※参考 『田川市立図書館 新館落成記念 昭和46年3月』(「田川市電子図書館」のジャンル「郷土資料」にて検索。ログインなしで読めます)
13枚目「図書館奉仕の概要」の「貸出文庫」には「図書館より遠隔の地の方やその他ご利用に不便な方のために貸出文庫を自動車でお届けします。地域、職場、公共施設ごとに申込んで頂き、1回30冊以内を貸出し、1ヶ月ごとに交換いたします」と書かれています。

*「としょかんふれんず千葉市」は千葉市図書館の発展を望み活動しています。

ホームページはこちらから

URL <https://furenzu2021.wixsite.com/toshokanfriends>

または右のQRコードを読み取ってください。



土気市民センター及び土気公民館の 建替えに関する住民説明会



日時:2025(令和7)年8月19日(火)18:00~19:10

会場:土気公民館 講堂

参加者:[住民] 会場15名 Zoom7名

[市担当課] 緑区総務課、区政推進課、緑区市民総合窓口課、高齢福祉課、中央図書館管理課、生涯学習振興課、防災対策課、緑区地域づくり支援課、学校施設課、資産経営課 計16名

Zoom視聴した画面には資料が写され、立替えの概要や工事中や工事後の対応等について資産経営課から説明があった。(建替えの概要は会報87号5ページ参照) 担当課は、緑図書館土気図書室が中央図書館管理課、土気公民館・新公民館図書室が生涯学習振興課、全体調整は資産経営課。

〈主な質問・意見〉

- Q. あすみが丘には公共施設があすみが丘プラザしかない。プラザは貸館であり、公民館やいきいきセンターを作ってもらいたい。
- A. 財政状況や人口減少などから、市の考え方として新たな施設は作らない方針。
- Q. 予算や土気町の人口動向の説明がない。市民センターをどうするかはそれらも含めて考えるべき。
- A. 議会で予算確保をしていない段階では予算は示せないが、約5年間様々な案を検討し、一番金額を抑えたこの案で進めたい。
- Q. 廃止となったバス路線があり、高齢化で車が運転できなくなると、市民センターを建てても行く手段がない。また、避難所である小学校体育館は冷暖房がなく、それができてから市民センターの建替えを考えるべき。
- A. 土気市民センターは市内センターの中で利用者が2番目に多く、必要な施設だと考えている。体育館の冷暖房は、本計画とは別に進めており、数年かかるが段階的に進めている。

その他、立替えは賛成だが平屋で必要な機能を賄えるのか心配、若い人が郷土愛を持って住めることに繋がる施設に、サークル関係の利用者にも説明や意見聴取をしてほしい等の意見が出ていた。

説明会の資料と議事要旨(質疑応答の内容)は、千葉市ホームページ「土気市民センター及び土気公民館の建替えについて」で見ることができる。(運営委員)

落丁等ありましたら、右記連絡先までお知らせ下さい

千葉市中央図書館

第22回読書まつりのイベントに協力

2025年10月19日(日) 9:30~15:30

としょかんふれんず千葉市のコーナーは

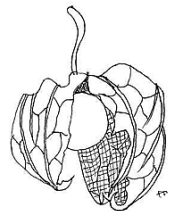
「知ろう あそぼう かるた」です。

ぜひ、当日スタッフとしてご協力ください。

ご都合のいい時間帯だけでかまいません。

＜申し込み・問い合わせ＞

メール:furenzu2021@gmail.com



うごき

- 7月25日(金) 中央図書館親子図書館たんけんツアーに協力
- 7月28日(月) 古本運び込み(1回目)
- 8月4日(月) 臨時運営委員会
- 8月7日(木) 運営委員会
- 8月8日(金) 令和7年度第1回図書館協議会を傍聴
- 8月10日(日) 第78回読書会
- 8月14日(木) 中央図書館読書まつり担当者会議
- 8月27日(水) 瑞穂町図書館見学
- 9月1日(月) 中央図書館読書まつりバッジ作り
- 9月4日(木) 運営委員会
- 9月8日(月) 編集会議
- 9月18日(木) 会報87号発行

発行者

としょかんふれんず千葉市

代表 皆倉 宣之

【連絡先】事務局

TEL・FAX 043(000)0000

メール furenzu2021@gmail.com

ホームページ URL

<https://furenzu2021.wixsite.com/toshokanfriends>

年会費 一般 1,500円 学生 500円

郵便振替 00150-4-282943